

日本産業看護学会 第8回学術集会

ダイバーシティの実現に向けた産業看護の力

-すべての人の多様な働き方を支えるために-

開催日：2019年10月26日(土)27日(日)

会場：関西医科大学医学部棟



プログラム概要

10月26日(土)

基調講演『多様な働き方を目指して—職場を支え、自分も支える—』

井上 幸紀（大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学 教授）

『働き方』に注目が集まっている。職場の求める働き方には様々な目標、社会環境、慣習などが影響し、労働者の働き方にも各自の価値観や性格、周囲環境などが影響する。時代の変化に合わせ、職場も労働者も適応的で多様な変化が求められている。多様化する働き方の中で、労働者がどのように健康的な適応を目指すのか、精神科医の立場から考えてみたい。

座長：三木 明子（関西医科大学看護学部 教授）

シンポジウム1『産業看護職による多様な職場での産業保健活動の実施と連携』

松本 泉美（畿央大学健康科学部 看護医療学科 教授）

産業看護職の働く場の多様化の現状を示し、それに伴う活動や役割の変化を通して、今後求められる産業看護活動への期待について述べる。

太田 由紀（JA 北海道厚生帯広厚生連病院総務課）

人命に向き合う現場で、医療従事者は健康と安全を脅かす要因にさらされている。今回「院内暴力対策と職員間ハラスメント対策」や、医療・介護分野の課題である「腰痛予防対策」について当院での取り組みをご紹介します。

森田 理江（関西医科大学看護学部 地域看護学領域 助教）

産業医が常勤でなく、産業看護職がひとりで働くことの多い職場では、判断や対応に迷う場面も少なくない。社内外のリソースといかに協働しながら、看護職の自律性や専門性を高められるかについて考える機会としたい。

村田 理絵（京都工場保健会産業保健推進部保健指導課 課長）

京都工場保健会の産業看護職は、様々な業種、規模の事業場に月1~2回程度訪問し、産業保健活動を展開している。本シンポジウムでは高齢者・若年者・障害者が多い職場における産業保健活動の実際をいくつか紹介する。

座長：畑中 純子（四日市看護医療大学看護学部 教授）、益江淑子（株式会社健康管理室 代表取締役）

シンポジウム 2 『多様な人を支えるための支援の方略』
藤吉 奈央子 (Harmony~Life&Work~ 代表)
がんを理由に離職を防ぐだけでなく、がんを抱えながら無理なく働き続けるために、産業看護職として出来る事は何か、一緒に考えるきっかけとなれば...と思う。
佐久間 博子 (関西医科大学附属病院看護部 がん看護専門看護師)
がんとその治療は、仕事を含めた人生に大きな影響を与える。生き甲斐である仕事への復帰と、命に関わる治療選択の狭間で揺れる若年がん患者へのかかわりから支援のあり方を振り返り検討したい。
神山 欣子 (社会福祉法人聖徳園人材開発室 室長)
訪問看護の利用者は医療ニーズの高い人、がん末期、認知症の人、精神疾患を持った人、小児(超重症児・準超重症児・医療定期ケア児)、一人暮らし・高齢者世帯などである。家族を含めて生きることを支援している。
小川 貞子 (NPO 法人 kokoima 理事長)
堺区香ヶ丘町を「まち場(まちの居場所)」として活動している。まちの人たちと日常的に触れ合える場は、互いを気づかう関係性を育み、障害のある・なしが自他の区別ではなくなりつつあるように感じており、こうした日常活動を報告する。
座長: 安田照美 (関西医科大学法人理事・統括看護部長)、佐々木美奈子 (東京医療保健大学医療保健学部教授)
特別講演 1 『Diversity & Inclusionーアンコンシャス・バイアスに焦点を当ててー』
大西 裕美 (株式会社ドクタートラスト 顧問)
「ダイバーシティ」を推進していくためには「インクルージョン(包括・受容)」の推進も同時に行うことが重要である。多様性だけでは組織の発展や活性化にはつながらない。インクルージョンについても理解を深め、産業の現場で活かしていくために必要な環境や専門職としてのコンピテンシーを探っていきたいと考えている。
座長: 中尾 由美 (中尾労働衛生コンサルタント事務所 ワーク&ヘルス)
教育講演 1 『産み育てる世代の社会経済的格差と女性の就労ー貧困の世代間連鎖の現状ー』
酒井 ひろ子 (関西医科大学看護学部 教授)
厚生労働省の国民生活基礎調査結果では、日本は米国、中国に次ぐ世界第3位の経済大国でありながら、7人に1人の子どもが貧困状態にある。子ども貧困は発達の諸段階における様々な機会を奪い、生涯に渡り不利な影響をもたらす連鎖を断ち切ることが難しい社会問題である。社会経済的格差が次世代へ及ぼす健康格差そして貧困家庭における生活や女性の就労の実際から課題や対策について話をする。
座長: 田中 希実子 (NTT 東日本首都圏健康管理センタ 看護部長)
ワークショップ 1 『自分らしく働くための Wellness Recovery Action Plan(WRAP)の活用』
矢山 壮・的場 圭・川崎 絵里香 (関西医科大学看護学部) 手嶋 大喜 (関西医科大学総合医療センター)
Wellness Recovery Action Plan (WRAP)とは元気回復行動プランと呼ばれており、毎日自分らしく元気であるために、日頃自分が出来る工夫を上手に使いこなすタイミングを教えてくれるシステムである。ワークショップでは WRAP を作り、自分らしく元気になる体験ができる。

10月27日(日)

**メインシンポジウム『変革の時代をしなやかに乗り切るために必要な産業看護職の力
-産業看護職に求められるコンピテンシーを考える-』**

島 忍 (東京地下鉄株式会社人事部健康支援センター)

今回は、私が現事業所での健康づくり体制の構築(健康に対する社内の意識改革)に、どのように取り組んできたのかを紹介する。参加されている産業看護職の皆さんのこれからの活動の力・自信につながればと思う。

大島 桐花 (株式会社NTT データ人事本部人事統括部健康推進室 シニアエキスパート)

経営トップからメンタルヘルス不調者への抜本的な対策を求められ、応えるために健康管理組織そのものを分離し再構築するまでのプロセスを通して産業看護職に求められるコンピテンシーを探る。

宇都宮 千春 (三菱ケミカル株式会社人事部健康支援グループ)

会社統合前は、各社で産業看護職の役割・活動内容等も異なっており活動範囲も狭かった。統合後は、産業看護職が様々な活動・施策にも参画できるように、職制・産業医など周囲へ働きかけた活動・内容について紹介する。

サトウ 菜保子 (日本航空株式会社人財本部健康管理部)

日本航空株式会社は、2010年1月に経営破綻しました。事業縮小、大幅な人材整理は、健康管理部にも及び、自らの足元も揺れる中、経営再建のために最も大事な「社員の健康」に注力してきた歩みをお話しします。

座長: 河野 啓子 (四日市看護医療大学 名誉学長)、磨田 百合子 (株式会社日立マネジメントパートナー)

**特別講演2『人生100年時代の産業看護職に求められる役割と展望
-生活習慣病予防の観点から「働き続ける」を実現する-』**

野口 緑 (大阪大学大学院 医学系研究科公衆衛生学 招へい准教授)

人生100年時代、定年延長と労働者の高齢化はすぐそこまで来ている。「あるべき論」の伝達だけでない効果的な保健指導は労働者自らのリスク管理を実現させる。「働き続ける」を支援する新たな役割を皆で考えたい。

座長: 松本 眞由美 (JXTG エネルギー株式会社)

特別講演3『がん・不妊治療と就労・生活の両立支援の未来のかたち』

遠藤 源樹 (順天堂大学医学部公衆衛生学 准教授)

順天堂大学公衆衛生学講座・産婦人科学講座と全国の不妊治療を専門とする複数の医療機関との共同研究班 J-FEMA Study (Japan-Female Employment & Mental health in ART: 研究班代表) を2017年11月に立ち上げ、2018年8月から日本で初めて、全国の不妊治療専門の医療機関での実態調査を開始した。講演では、J-FEMA スタディの研究結果と、不妊治療と就労の両立支援のポイントを話す。

座長: 西内 恭子 (梅花女子大学大学院看護保健学研究科 教授)

教育講演 2 『在留外国人の介護と労働をめぐる現状と課題』

李 錦純（関西医科大学看護学部 准教授）

日本で暮らす在留外国人は約 256 万人、その約 17 万人が 65 歳以上である。高齢化の進展により、多様な国籍や在留資格、文化を有する外国人の介護問題が顕在化しており、介護する家族の離職や健康問題も課題となっている。改正入管法の成立に伴い、介護分野で最大 6 万人の外国人労働者の受け入れを見込む現在、当該分野のケア提供者・受領者双方におけるダイバーシティの現状と課題を提示し、健康支援のあり方について考察する。

座長：鳥羽山 睦子（聖隷福祉事業団保健事業部 部長）

トークセッション 『職場におけるメンタルヘルスと LGBT/SOGI

－LGBT と職場環境に関するアンケート調査から見えてくるもの－』

橋本 竜二（特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ）

弊団体では 2015 年より LGBT と職場環境に関するアンケート調査を実施している。本調査で LGBT 等の性的マイノリティであることが、働きやすさやメンタルヘルス等に大きく影響することがわかっている。また自殺総合対策大綱においても、自殺念慮の割合等が高い層であると指摘されており、今や、知っておかなければならないトピックになりつつある。今回はトークセッションという比較的フランクな場で、みなさんと一緒に考えを深めたいと思う。

座長：石塚 真美（帝京大学医療技術学部 助教）、福田 久子（つくば国際大学医療保健学部 講師）

ワークショップ 2 『福田笑子研究助成基金交付者と辿る研究のプロセス』

吉田麻美（東北電力株式会社女川原子力発電所総務部総務）

「研究計画書のキモ：文献検討と緒言の書き方」

山本由加里（東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科）

「研究方法の書き方のコツ」

小野郁美（株式会社 NTT データ人事本部健康推進室）

「研究成果のまとめ方と伝え方」

高波利恵（活力職場研究所）

「現場での研究成果の活用法」

座長：後藤 由紀（四日市看護医療大学看護学部 准教授）、

猪股 久美（帝京平成大学ヒューマンケア学部 准教授）

産業看護アセスメント研修会 『集団、組織のアセスメント能力を高める

－産業看護アセスメント研修会－』

秋元 史恵（産業看護学会産業看護学体系化検討委員会） 他

アセスメントの基本、集団・組織のための産業看護アセスメントツールの解説に加え、ツールを活用した実践的なアセスメント能力習得のためのワークを行います。

ナーシング・サイエンス・カフェ 『“はたらく人を支える” 産業看護

現役産業看護職が伝授！ 産業看護の仕事とは？』

セッション A

堀 明日香（元筑波大学大学院人間総合科学研究科）

「新人産業看護職になるまでの選択」

益江 淑子（株式会社健康管理室 代表取締役）

「開業保健師 8 年目、働き方も様々」

保田 智代美（JFE プラントエンジニア株式会社）

「産業看護職の魅力発見－自分らしさを生かす－」

鈴木 雅子（株式会社 NTT データ人事本部健康推進室 課長代理）

「IT 企業の産業保健活動に 20 年あまり従事して」

津田 由紀 (パナソニック健康保険組合)
「未来はどうやってつくる?—産業看護の3つのC (Change, Challenge, Chance)」

セッション B

鈴木 理恵 (ソニーコーポレートサービス株式会社)
「新人が考える産業看護職の魅力について」
田所 直子 (Be Happy 産業看護コンサルティング)
「働く人々と組織の笑顔を輝かせる産業看護活動の魅力」
佐藤 百合 (京都工場保健会産業保健推進部保健指導課)
「2つの職場を経験して産業看護職として思うこと」
池内 知鶴 (株式会社中電工岡山統括支社)
「産業看護職の仕事の醍醐味」
松浦 清恵 (トヨタ自動車株式会社 グループ長/統括保健師)
「トヨタで30年サラリーマン+保健師を続けてきてわかったこと」

司会 : 山之内 由美 (パナソニック健康保険組合立松下看護専門学校)、
武 ユカリ (関西医科大学看護学部 講師)



←学術集会ホームページ

【参加費】

区分	事前登録	当日登録(現金のみ)
会員	6,000 円	8,000 円
非会員	7,000 円	8,000 円
懇親会参加費	5,000 円	6,000 円

※事前参加登録は 2019 年 8 月 31 日までです。